

日本労働年鑑 第56集 1986年版
The Labour Year Book of Japan 1986

第二部 労働運動

XII 政党

6 日本共産党

6 国際活動

代表団の海外派遣

(1)八四年七月一六～二五日、岡崎万寿秀中央委員ら二人、革命勝利五周年式典出席のため、ニカラグアを訪問。

(2)八四年八月一三～二五日、上田耕一郎幹部会副委員長ら三人、スウェーデン、ルーマニアを訪問。

(3)八四年九月五～二一日、吉岡吉典常任幹部会委員・赤旗編集局長、ユマニテ祭・ウニタ祭などに出席のため、フランス・イタリア・ベルギー(ブリュッセル)などを訪問。

(4)八四年九月一八～二九日、不破委員長、立木洋常任幹部会委員・国際委員会責任者ら六人、ベトナム・カンボジアを訪問。レ・ズアン・ベトナム共産党書記長らと会談。

(5)八四年一〇月一～一八日、新原昭治幹部会委員、国際理論円卓会議に参加のためユーゴスラビアを訪問。途中、コペンハーゲンをも訪問。

(6)八四年一〇月四～一二日、山下文男幹部会委員・出版局長ら二人、ドイツ民主共和国三五周年記念式典出席のため、ドイツ民主共和国を訪問。

(7)八四年一〇月二二日～一二月二日、市川正一常任幹部会委員・組織局長ら研究代表団三人、ドイツ民主共和国を訪問。

(8)八四年一一月五～一五日、村上弘幹部会副委員長ら研究代表団三人、ハンガリーを訪問。

(9)八四年一一月一四～二八日、不破委員長、紺野純一常任幹部会委員ら六人、キューバ・メキシコ・ニカラグアを訪問。ゴメス・メキシコ社会主義統一党書記長、カストロ・キューバ共産党第一書記らと会談。

(10)八五年一月二三～三一日、吉岡吉典常任幹部会委員・赤旗編集局長ら四人、軍縮と緊張緩和のための第三回ウイーン対話集会に出席のため、オーストリアを訪問。

(11)八五年二月四～一八日、立木洋常任幹部会委員・国際委員会責任者ら三人、フランス共産党大会への出席などのため、フランス・イタリア・ユーゴスラビアを訪問。

(12)八五年三月五～一二日、小森良夫中央委員・平和問題対策委員会責任者ら四人、核廃絶のための活動を紹介するためにソビエト連邦を訪問。

(13)八五年三月一二～一六日、不破哲三幹部会委員長、金子満広書記局長ら三人、チェルネンコ書記長の葬儀に参列するため、ソビエト連邦を訪問。不破委員長は三月一三日の葬儀に出席し、三月一五日にはゴルバチョフ書記長とも会談した。

(14)八五年三月一九～二七日、金子満広書記局長、立木洋常任幹部会委員ら四人、世界平和評議会代表委員会出席のため、モスクワを訪問。

(15)八五年五月七～一〇日、立木洋常任幹部会委員ら二人、対ファシズム戦勝四〇周年記念行事に出席のため、ソビエト連邦を訪問。

代表団の来日

八四年七月以降の一年間に、日本共産党の招きで日本を訪れた外国共産党・労働者党の代表団には以下のものがある。

(1)メキシコ社会主義統一党代表団(八四年七月一八～二〇日、団長=ヒルベルト・リンコン・ガジ

ャルド政治委員会委員・書記局員)、(2)フランス共産党代表団(八五年八月二五～二九日、団長＝マクシム・グルメツツ政治局員・書記)。

【参考資料】

〈日本社会党関係〉(1)日本社会党中央本部機関紙局「社会新報」(2)同『月刊社会党』、(3)日本社会党政策審議会『政策資料』、(4)『日本社会党第49回定期全国大会速記録』、(5)社会主義協会(向坂派)『社会主義』、(6)社会主義協会(太田派)『社会主義』、(7)労働社会問題研究センター『社会労働評論』、(8)社会通信社『旬刊社会通信』

〈公明党関係〉(1)公明党機関紙局『公明新聞』、(2)同『公明』

〈民社党関係〉(1)民社党本部『週刊民社』、(2)同『かくしん』、(3)民社党 政策審議会『政策と討論』、(4)全日本労働総同盟『同盟』(月刊)、(5)民主社会主義研究会議『改革者』

〈日本共産党関係〉(1)日本共産党中央委員会『赤旗』、(2)同『理論政策』、(3)同『前衛』、(4)同『暮らしと政治』

以上のほか第七三回総評定期大会各局報告書、同盟第二一回定期大会報告書、『朝日新聞』、『読売新聞』、『毎日新聞』、『日本経済新聞』などを利用した。

日本労働年鑑 第56集 1986年版

発行 1985年12月5日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月15日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1986年版(第56集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
